北海道支部

6月28日、第44回北海道支部総会・講演会・懇親会を札幌市「ラソールガーデン札幌」にて開催しました。当日は、青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授輪島達郎先生、同後藤千織先生、後藤道子同窓会副会長、村田豊校友会札幌支部事務局長をお迎えし、総勢24名が参加しました。

第1部の総会は、輪島先生による礼拝で始まり、讃美歌を斉唱し、お祈りを捧げました。「我らに罪をおかす者を我らが赦すごとく」と題したマタイによる福音書のメッセージをいただいた後、来賓紹介、議事へと進みました。活動計画・予算案が承認され、役員紹介に続き、元支部長・ジェンダー調査専任委員・加藤和子委員(45E)と元副支部長・山田陽子委員(45J46JS)の退任が報告されました。



第2部では、輪島先生より「短大の教養教育と『沖縄を学ぶ旅』」をテーマにご講演をいただきました。「消費者から植民者の自覚へ」をキーワードに、北海道に暮らす私たちにも通じる示唆に富んだ内容で、礼拝に続いて多くの学びと気づきを得る貴重な機会となりました。

記念撮影後の懇親会は、村田事務局長の乾杯で開会し校友会札幌支部の活動紹介も行われました。輪島先生、後藤先生から大学の近況などのお話を伺い、懐かしいキャンパスに思いを馳せるひとときとなりました。また、後藤副会長からは同窓会運営の現状や年会費納入への協力について説明があり、参加者は美味しい料理を囲みながら交流を深めました。



秋の行事では「塗香(ずこう)」体験を予定しています。塗香は、手や身体に直接すり込んで楽しむ粉末状のお香で、自分好みの香りを作ることができます。古くから僧侶がお清めのために用いてきたもので、現在では一般にも広まり、邪気を払い、心身を清めるとともに、リラックス効果も期待されるそうです。北海道は広く、交通事情から参加が難しい面もありますが、同窓会は新たな出会いや学びにつながる貴重な機会です。青短の精神「しなやかに夢を生きる」を受け継ぐ同窓生の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

55L　櫻井　秀子(竹田)

東北支部

7月4日、東北支部第35回総会を、青山学院大学コミュニティ人間科学部教授菅野幸恵先生、同小林瑞乃先生、安西彰子同窓会会長をお迎えし、岩手県「ホテルメトロポリタン盛岡」で行いました。当日は晴天に恵まれ、受付周辺や会場は年に一度の再会を喜び合う笑顔であふれていました。

総勢41名の参加で、総会第一部では、中村いずみ岩手県部会会長(56E)の伴奏で讃美歌を歌って礼拝を行い、総会の議事もスムーズに終了しました。

第二部は、菅野先生に『ケアの観点からみる青短・短大同窓会』と題してご講演いただきました。生きる上で自己肯定感が大切であること。また、世代や学科を超えたつながりを持つことができる同窓会を含めて、青短の良さを改めて感じたお話でした。

第三部の懇親会は、岩手県部会菊地和子さん(63H)の司会で始まり、中村県部会会長の歓迎のごあいさつが、驚くほど上手なネイティブな南部弁だったことに感心しました。おもてなしの心が伝わる方言で、会場もより和やかな雰囲気になりました。



安西会長からのお話があり、小林先生の乾杯のごあいさつの後、いよいよ会食。おいしい中華料理をいただきました。

今回アトラクションで「乙部さんさ踊り保存会」による演舞が用意され、伝統さんさ踊りを間近で観ることができました。約470年前から諸霊の冥福を祈り、家内安全・五穀豊穣を祈願して踊り継がれてきた無形民俗文化財で、伝統さんさを初めて観た方も多く、演舞終了後には一緒に記念写真を撮る時間も設けられました。



そのあと、東北6県の各県部会会長から活動報告がありましたが、共通の悩みは同窓会継続のための後継者問題です。全国には同窓会支部が無い地域もありますが、先輩のご尽力でつくられた6県の東北支部を今後も継続していけるように、私たち自身が楽しんで活動していくことで、若い後継の方が出て来てくださるよう願っております。

最後は、讃美歌405番を歌い、再会を誓って閉会となりました。

来年は7月3日(土)青森県での開催です。青森市でお待ちしております。

52C 53CS　西舘　桂子(中村)